

『預かった「もの」』(マタイの福音書 25 章 14-30 節) 2022.6.12.

<はじめに> 未知の物事を相手に伝えるのに、既知の物事で例えるのは常道です。天の御国を示すためにイエスも使われました(マタイ 13,18,19,20,22,25 章)。天の御国を「自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人」(14)に例えています。国を人に例えるとは思ひません。

I たとえの物語(15-30)

①主人と3人のしもべ

旅に出る主人は、しもべたちにそれぞれ財産を譲ったのでしたか。渡した財産に差があるのは、何故でしたか。3人のしもべは預かった財産をそれぞれどうしましたか。その結果どうなりましたか。主人は、どれくらいの期間、旅に出ていると思いますか(19)。

②清算が始まって

主人の帰宅後、しもべたちと預けた財産の清算が始まります。主人は「わずかな物」と言いますが、1 タラントは今の金額でどれくらいでしょうか(15 節欄外注参照)。もう 5 タラント儲けたしもべと、もう 2 タラント儲けたしもべに掛けた主人の言葉に違いはありますか。

③主人と清算するしもべたち

1 タラント預かったしもべは、それを土の中に隠した理由が何だと言っていますか。彼は主人をどう見ていたでしょう。主人は彼をどう評価し、彼にどうすべきだったと言っていますか。彼と、彼の 1 タラントはどうなりましたか。あなたはどのしもべが一番気になりますか。

II 預かったものがある

①賜物としての御霊

主人は、天の御国の主なる神です。御国の主に仕えるしもべである私たちに、神は約束の賜物としての聖霊(使徒 2:38)を注がれました。この御方は、その人のうちに御霊の実(ガラテヤ 5:22-23)を結ばせ、御霊の賜物(I コリント 12:4-11, 28)を分け与えます。

②だれでも何かを預かっている

3 人とも主人から財産を託されたように、主を信じる者には必ず御霊の賜物が託されています。生来の才能・能力も賜物とも言えますが、御霊の賜物はまた別物です。聖書にそのリストがあります(ロマ 12:6-8, エペソ 4:11)。どんな賜物を自分は預かっているのでしょうか。

③主のため、互いに仕え合うため(エペソ 4:11-16)

預かった賜物は、預け主の意向に沿って用いるのが当然です。しもべは主人の喜びのために勤めます(21,23)。天の御国の主なる神の喜びとは何でしょう。聖徒たちを整え奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げ、お互いがキリストのようにするためです。

III 預かった者への期待

①それぞれその能力に応じて(15)

御霊の実はクリスチャンに現れる共通の品性の特徴ですが、御霊の賜物は各自に異なるものが与えられています。各自の能力に応じて、神が主導して分け与えられますから、ユニークです。他と比較して羨望したり、妬んだり、劣等感を感じる必要はありません。

②主を思いながら

預けた主人の意向に沿って、具体的にどう用いるかは本人に委ねられています。十分な時間と機会も主なる神は与えられます。主なる神をどう見ているかで取り組みに違いが出て、それゆえ結果も異なります。あなたは神をどんな方で何を望まれると捉えていますか。

③賜物の管理者として(I ペテロ 4:10-11)

成果を上げたから二人は称賛されたのでしょうか。賜物と預け主を見つめ、自分にできることを精一杯したことを、主は「良くやった。主人の喜びをともに喜んでくれ」と労います。私たちはそれぞれが受けた賜物の管理者として、為し得る限りを行っているのでしょうか。

<おわりに> 「あなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください」(II テモテ 1:6) ともあります。私たち一人ひとりに与えられている聖霊の賜物に目を向け、しっかり受け取りましょう。それを主とお互いのために用いることこそ主と私の喜びとなりますように。(H.M.)